

令和 7 年度第 1 回地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会議事録

令和 7 年 7 月 2 9 日（火） 1 9 時 0 0 分～1 9 時 5 0 分

下関市立市民病院 2 階 講堂

地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会

： 飴山委員長、嶋本委員、関野委員、塚原委員、坂井委員

地方独立行政法人下関市立市民病院

： 田中理事長、上野副理事長、吉川参与、法人事務局

下関市保健部

： 八角部長、藤井部次長、藤永部次長、荒川地域医療課長 ほかに 2 名

1. 開 会

2. 委員長互選

地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会条例第 5 条第 1 項の規定に基づき、委員長の互選が行われ、飴山委員が委員長に選出された。

3. 議 題

・令和 6 年度の業務実績に関する評価結果（案）について

事務局	概要説明
-----	------

＝質疑応答・意見等＝

評 価 委 員	評価基準について、2 段書きにされている「進捗の度合い」と「判断基準」に乖離があることで、法人側と市側とで判断が異なることが、評価が異なる原因ではないか。認識は一致しているのか。
事 務 局	「3」の標準の評価を基準にした場合の判断ということで、ご了解いただきたい。 過去には 1 つの基準だけで表記していたこともあるが、それだとわかりにくいということで、付け加えた経緯があった。 評価基準の認識は市民病院と一致していると考えている。

法 人	<u>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</u> <u>2 患者サービスの向上 (1) 患者中心のチーム医療の充実</u> 業務実績に関する評価結果〔小項目〕の資料14ページ、項目17であるが、紹介率が50%以上、逆紹介率が70%以上という地域医療支援病院の基準はクリアしている。初診患者が令和6年度に978人増えているが、その方が重要だと思っている。地域医療支援病院の要件をクリアしているのに、「2」という評価はどうしても承服できない。
評 価 委 員	地域医療支援病院の要件は達成しているが、実際の数字が落ちたということで、市は「2」をつけている。紹介率、逆紹介率が前年を下回った要因は何か。
法 人	初診患者数が増えたからである。紹介率は、紹介患者数を初診患者数で割ったもの。紹介患者数が増えているが、初診患者数の増え方がもっと高かったので率は下がっている。逆紹介数はほとんど同じだったが、初診患者数が増えたので率は下がっている。 全身麻酔で手術をする患者の口腔ケアをするため、医科から歯科に紹介するが、それが初診になる。その数が増えたのが、かなり影響している。
評 価 委 員	昨年よりも術前のオーラルケアチェックが進んだからであれば、数字が下がったことを負の要因としてとらえなくてもいいと思うので、「3」でいいのではないかと思います。
評 価 委 員	業務実績に関する評価結果〔小項目〕の資料18ページ、項目24で、医療安全管理マニュアル等により安全の確保の項目の中で、病院が努力されている部分では、画像診断において偶発的に悪性所見が見られ、20件発見できたということや、加算が1から2に引き上げられる努力をされたということは、十分に上回っていると思うので、「5」でもいいのではないかと思います。
法 人	<u>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</u> <u>4 医療に関する調査及び研究</u> 業務実績に関する評価結果〔小項目〕の資料27ページ、項目41で、評価が「4」になっている。DPC病院の機能評価係数について、4病院のうち他の3病院がすべてマイナスであるが、うちだけが0.0041増えており、1年で数百万の増収になると思う。これを「4」に下げる根拠はないと思っている。

評 価 委 員	評価を「5」に上げてもいいのではないかと思います。
法 人	<u>第4 財務内容の改善に関する事項</u> 業務実績に関する評価結果〔小項目〕の資料 39 ページ以降の財政的なことだが、目標には及んでいないので、3か所「3」と自己評価したが、いずれもこれを「2」とされている。 物価上昇で人件費や光熱費が高騰している。病院は診療報酬で収入が決まっており、収入を増やすことが難しい。全国ではほとんどの急性期病院が昨年度は赤字を抱えており、国立大学病院でも8割が赤字である。構造的なものであるため、評価を「3」にさせていただけないか。
評 価 委 員	病院協会の統計でも66%の病院は赤字になっており、今回の診療報酬改定が診療所のみならず、病院の経営にすごく大きな打撃を与えている。赤字の原因が、先生たちが仕事をしなくなったからではないということは百も承知である。 ただ、5億1000万の赤字となった以上は、経営が悪くなったという認識をしないとイケない。それに概ね達成している「3」をつけるような経営姿勢では、来年同じことがまた起きるし、年度が経てば経つほど赤字額が増えると思う。
法 人	「3」という評価にすると、対外的に、市は何をしているのか、市民病院の運営はどうなっているのかと言われるのではないか。 収入をふやす方法は、紹介患者を増やすこと、加算を取っていくこと、医科から歯科へ紹介すること。救急輪番が3病院になったことにより、救急患者も救急車の搬入も増えた。クリニックを回って、紹介患者を増やす努力をしている。
評 価 委 員	評価を変えて欲しかったが、対外的に「3」をつけるのがどうかというのは理解できる。 おそらく、今年度も経営状況が悪くなるので、悪いということを形にしておかないと、5億1000万の赤字が出た状態のときに、概ね達成している「3」をつけたら、経営状態が悪いことを認識していないのではないかとと思われる。
評 価 委 員	今、こんなことをして努力しているということを目標に掲げて、数字が悪いものは悪いという評価にしておく必要がある。
評 価 委 員	キャッシュフロー計算書の中に、補助金等収入があるが、これは具体的にどちらから補助金が入るのか。
法 人	補助金は、基本的には市を経由して入るものがいちばん多い。
評 価 委 員	単年度で5億ほどマイナスが出ているが、毎年このような状態に

事務局	なると、市から補助金が増額されるといったことはあるのか。
事務局	市から市民病院への補助金は、総務省の繰出基に基づいて救急医療などの不採算医療について行っている。経常収支が赤字になったから増えるものではない。
評価委員	評価「3」はちょっと難しいという気がするので、「2」という意見である。
事務局	項目17「地域医療支援病院としての役割充実」において、「2」の評価があったため、「第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の大項目評価が「B」評価になっていた。ご意見をいただき、評価を「3」に変えたため、全体評価も「A」評価に変えることになる。

＝評価に対する意見＝

大項目第2、中項目1の(4)、小項目17「地域医療支援病院としての役割充実」については、紹介率及び逆紹介率が減少し、計画値を下回っているが、手術前の口腔ケアを行うために、院内で歯科を紹介したことに伴う初診患者数の増加によるものであり、口腔ケアの実施を推進したことを考慮して、「年度計画を順調に実施している」と評価すべきと考えます。

また、大項目第2、中項目2の(1)、小項目24「医療安全管理体制の充実」については、画像診断報告書等の確認体制の構築などで医療安全管理体制の充実に努めたこと、大項目第2、中項目4、小項目41「医療の質及び効率性の向上」については、令和7年度の機能評価係数Ⅱが前年度から増加し、DPC標準病院群の中の順位も前年度より上昇したことから、「年度計画を大幅に上回って実施している」と評価すべきと考えます。

大項目第4、中項目1、小項目61「経営改善に向けた取組」、小項目73「安定した経営基盤の確立」及び、中項目3、小項目67「適正な職員配置」については、法人より、診療報酬改定の影響、物価上昇及び人件費の高騰などの社会情勢を考慮した評価を要望する意見があったが、経常収支比率及び人件費比率などが計画値を大幅に未達成であること、収支で過去最大の赤字を計上したことなどを勘案し、「年度計画を十分に実施できていない」と評価すべきと考えます。